2019年度　卒業時調査 結果報告

2020年6月

ＩＲ委員会

目次

１．調査の概要……1
２．所属の学科・専攻にどの程度満足していますか……3
３．共通教育……3
４．外国語教育……4
５．情報教育……4
６．専門課程の教育……4
７．ゼミ・演習……6
８．教員……7
９．図書館……7
１０．就職支援（企業等）……8
１１．学習環境……8
１２．所属学科への進学推奨……9
１３．まとめ……10

１．調査の概要

本報告書は、大阪大谷大学における2020年3月期（2019年9月末卒業生を含む）の卒業生を対象として、本学に対する満足度を把握するために実施したアンケートの結果を集計したものである。調査は、卒業研究論文の提出締め切りや卒業判定の結果、卒業が確定した学生を、moodle上に設置された各学科別の「卒業時アンケート」のコースに登録して、随時回答してもらう方法で回収された。締め切りは3月19日（9月期卒業生は9月末）までとし、各学科の都合により締め切り日を調整した。

一方、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のために、卒業式の実施が見送られ、「卒業証書・学位記の授与および事務連絡」を学科ごとに分散実施するという異例の対応となった。そんな中でも、各学科IR委員、ゼミ・アドバイザー教員、卒業生の協力によって、90.5%の高い回答率を維持することができた。IR関係の研究会や学会等でも、「Web方式によるアンケートの回答率が低いのは当然」との共通理解がある中、飛びぬけて高い回答率を維持できている。これは、IR委員から各学科の教員に対してタイムリーな未回答者リストの提供と回答督促依頼が行われたこと、同時に、moodleから未回答に対して「個別督促メール」が送信されたことが有効であったからだと考えている。

表１　調査の回収状況

	回答数(内数)	卒業者数(内数)	回答率（%）	H30 回答率
日本語日本文学科	21(0)	51(0)	41.2	87.8
歴史文化学科	41(0)	50(2)	82.0	89.6
教育学科幼児教育専攻	112(0)	119(4)	94.1	93.2
教育学科学校教育専攻	94(2)	95(2)	98.9	96.7
教育学科特別支援教育専攻	33(0)	34(1)	97.1	100
人間社会学科	78(0)	78(0)	100	100
スポーツ健康学科	112(0)	115(1)	97.4	98.4
薬学科	131(16)	145(31)	90.3	99.4
全体	622(18)	687(41)	90.5	96.5

（）は９月末卒業者数

日本語日本文学科の回答率が低かったのは、IR 委員とゼミ担当の教員間で督促に関する連携がうまく機能しなかったためである。次年度は、役割分担の確認とともに、センターを中心に効果的な相互支援体制を構築する。以下の項目においても、日文の値を前年度と単純に比較することは適切でないので、参考値と位置付け、深く考察することはしない。

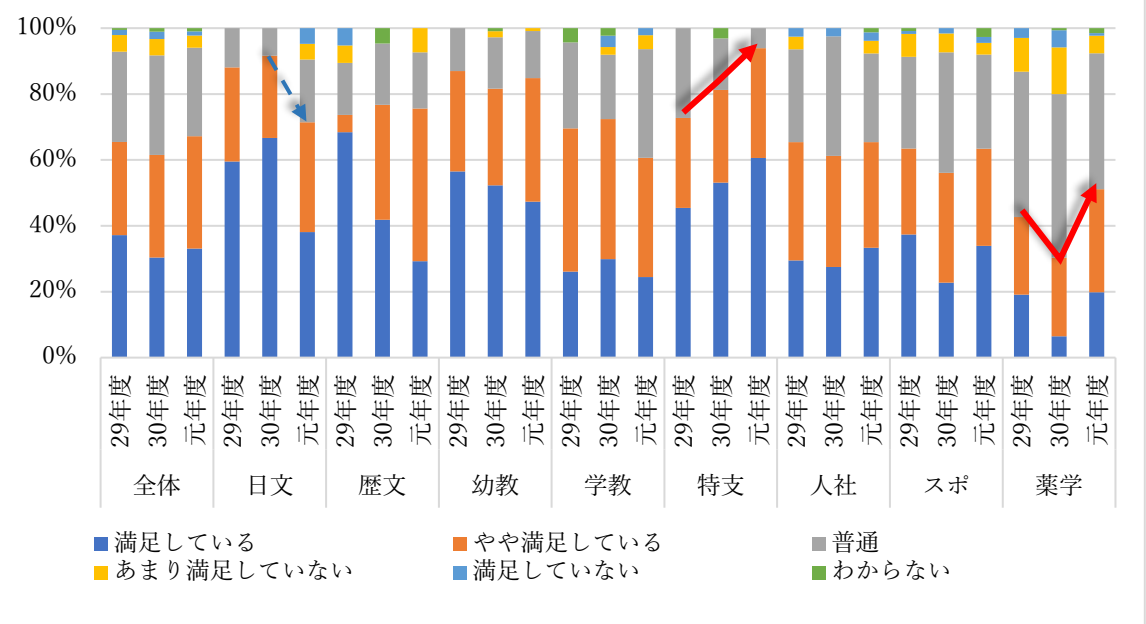
【表 2～10 における表記（単位は%)】

・満足している＋やや満足している　⇒　「満足」
・普通　⇒　「普通」
・あまり満足していない＋満足していない　⇒　「不満足」
・わからない　⇒　「その他」

と表記した。

２．所属の学科・専攻にどの程度満足していますか

図１　所属の学科・専攻への満足度



・30 年度と比べて日文の満足群が減った。日文については、回収率が前年度の半分であった（表１）という事情がある。

・特支は年々満足群が増えている。

・薬学では、直近３年間で最も満足群が増えた。

【以下　教育学科の３専攻はまとめて「教育」と表記した。】

【以下　割合は小数第１位を四捨五入して整数値で表した。】

３．共通教育

表２　共通教育への満足度

	満足			普通		
	H29	H30	R１	H29	H30	R１
日文	76	80	43	21	19	48
歴文	63	63	59	32	35	32
教育	53	63	66	35	31	29
人社	49	47	46	40	29	42
スポ	57	45	62	36	37	31
薬	31	17	34	39	54	53
全体	55	62	55	35	30	37

・３年間の推移をみると、満足群が概ね６割に達する。卒業生にとっては、３年（薬学の場

合は５年）も前のことであり、満足群と普通群でほぼ９割になる。「１回生の頃を振り返って概ね満足できる」あるいは「不満足だったことは忘れかけている」状態だと思われる。

４．外国語教育

表３　外国語教育への満足度

	満足			普通		
	H29	H30	R１	H29	H30	R１
日文	55	61	38	26	33	52
歴文	53	44	44	21	47	34
教育	46	40	42	32	41	39
人社	44	47	41	39	38	36
スポ	42	39	51	44	50	34
薬	19	11	19	36	50	41
全体	43	49	40	36	39	39

・全体の「満足」が 50%に達していない（H29，H30 も同じ傾向）。

・卒業生にとって、外国語教育は共通教育科目の一部であり、過去の科目という位置づけである。薬学の満足群が他学科に比べて少ないのは、「他学科より２年前のことであり、時間が経ちすぎている」という要因も考えられる。

５．情報教育

表４　情報教育への満足度

	満足			普通		
	H29	H30	R１	H29	H30	R１
日文	74	67	52	26	28	43
歴文	42	51	44	42	40	29
教育	44	46	45	39	44	42
人社	52	53	49	43	39	44
スポ	46	38	52	40	50	38
薬	25	16	21	47	55	55
全体	48	40	41	40	45	45

・全体の「満足」が 40%程度にとどまっている（H29，H30 も同じ傾向）。

・デジタルトランスフォーメーションの進展という社会基盤変化の中で、１回生で履修する「コンピュータ技術基礎」「薬学情報基礎」という科目だけという授業の設定は、明らかに不足していると思われる。現在、文理横断的内容の「AI・数理データサイエンス入門」を全

学必修科目にするように求められており、本学でも準備中である。ただ、これらの“情報教育科目”は、コンピュータ関連の内容を取り上げているという印象が強い。文書作成，問題解決における情報収集・データ取り扱いの発想・スキルは社会人基礎力であり、従来の「コンピュータ関連」ではない。本年４月から、新型コロナ感染症対策として一斉に導入せざるを得なかったICT利用学習環境は、「１回生で情報教育を履修した後にその力を他の科目で使う」といった従来型履修モデルでは対応できないことを明確にした。入学直後から ICT利用学習環境で学修できるよう多くの科目の内容を見直すとともに、入学前教育で基本的な学修スキルを獲得させることが必須である。卒業時調査では、ネットワーク環境、ICT学修支援、オンデマンド授業、同時双方向授業について満足度を尋ねるよう修正していくべきであろう。

６．専門課程の教育

表５　共通教育への満足度

	満足			普通		
	H29	H30	R１	H29	H30	R１
日文	86	91	67	14	8	24
歴文	79	81	68	16	14	29
教育	84	86	78	14	14	18
人社	71	79	67	26	16	28
スポ	73	50	71	21	32	28
薬	58	34	55	28	50	38
全体	75	69	70	20	25	26

・いずれの学科も満足度が高く、満足群と普通群でほぼ 90％に達することから、今後は、これを維持していくことに注力すべきだと考えられる。つまり、満足度調査や年２回の授業評価アンケートの結果と連動させ、不満足群の要因を分析して、個別に対応せざる得ないものと、受講者全員に効果が期待される修正内容に分けるべきであると考えられる。

７．ゼミ・演習

表６　ゼミ・演習への満足度

	満足			普通		
	H29	H30	R１	H29	H30	R１
日文	95	95	81	5	0	10
歴文	79	86	88	16	12	10
教育	86	84	85	12	10	11
人社	86	85	77	10	11	21
スポ	90	84	84	7	14	12
薬	65	54	76	22	37	19
全体	87	78	81	10	17	15

・いずれの学科も満足度が高く、満足群と普通群でほぼ 90%に達することから、今後は、これを維持していくことに注力すべきだと考えられる。

・薬学は、近３年で最も満足度が高くなり（昨年度比 22 ポイント増)、改善努力が反映されたことが判る。ただ、昨年度は実施時期が 11～12 月と早かったため、高い回収率を得ることができたが、卒業試験等の時期的なバイアスのため調査結果が大きく変動したという事情もある。今回は、他学科と同じ時期に実施されており、一昨年度と比較すべきかも知れない。

８．教員

表７　教員への満足度

	満足			普通		
	H29	H30	R１	H29	H30	R１
日文	95	92	71	5	6	14
歴文	74	91	83	11	7	15
教育	77	76	75	14	18	21
人社	62	78	67	23	20	27
スポ	70	68	68	20	21	25
薬	44	36	60	36	39	29
全体	71	66	69	19	23	25

・いずれの学科も満足度は高い。特に薬学は、これまで満足群の値が低く、改善が求められていたが、その効果が表れてきた。

９．図書館

表８　図書館への満足度

	満足			普通		
	H29	H30	R１	H29	H30	R１
日文	71	92	76	21	6	14
歴文	79	65	78	21	26	17
教育	74	73	71	11	19	24
人社	62	69	60	22	19	33
スポ	59	44	49	27	36	31
薬	50	29	36	25	40	43
全体	64	58	57	22	26	32

・薬学では H28 から H30 にかけて徐々に満足群＋普通群が減って(79% ⇒ 75% ⇒ 69%)、いたが、今年は 79%となった。

昨年度も本項目について「電子書籍・データベース提供への満足度を併せて尋ねる必要がある」と考察したが、この項目は、「大学のサービスに対してどの程度満足していますか」の設問の中にあり、施設に対する満足度を尋ねているのではないから、“図書館と学術データベース・サービス”に変更した方が、実情に沿っていると考えられる。

１０．就職支援（企業等）

表 9　就職支援（企業等）への満足度

	満足			普通		
	H29	H30	R1	H29	H30	R1
日文	69	75	43	7	11	29
歴文	63	49	51	16	33	22
教育	47	49	50	12	14	25
人社	53	56	60	23	31	26
スポ	63	57	47	17	28	28
薬	36	24	33	17	37	35
全体	56	47	46	16	25	29

・人社は、満足群が近 3 年間（53%⇒56%⇒60%）改善傾向にある。

・薬学は、「就職」について学科で対応していること、また、教育は教員採用試験を目指す学生への支援が教職教育センターで行われているため、キャリアセンターの利用者が他学科に比べ少ないのではないか。今後、キャリアセンターの業務が理解され、徐々にその効果が浸透していくことが期待される。

１１．学習環境

表 10　学習環境への満足度

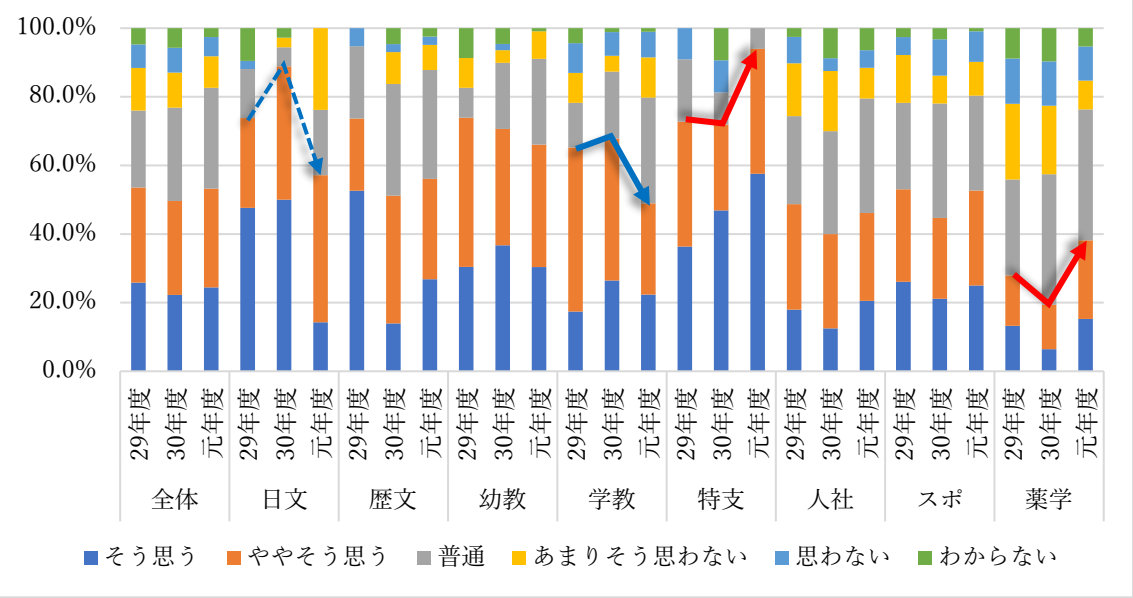
	満足			普通		
	H29	H30	R1	H29	H30	R1
日文	64	77	43	29	17	29
歴文	68	56	59	21	33	24
教育	54	61	56	30	25	32
人社	52	42	55	35	43	32
スポ	45	38	53	41	48	31
薬	39	30	49	31	37	31
全体	51	48	53	34	33	32

・H28、H29 と較べ大きな変化はない。

・校舎の老朽化、体育施設・設備の不足は大きな不満要因であると推察される。一方、今年は 4 月以降学生が登学禁止となり、一斉に遠隔授業を受講せざるを得なくなった。本調査には反映されていないが、ICT 環境（特にネットワーク）は、主要な学習環境であり、それが整備されているか否かは、今後の満足度に影響すると考えられる。学習環境の中に何が含まれるのかを明記する必要がある。

１２．もし身近にあなたの所属学科・専攻への進学希望者がいる場合、大阪大谷大学の所属学科・専攻の進学を勧めたいと思いますか

図 2 在籍学科・専攻への進学を勧めたいか



・全体では、肯定群が 3 年間約 50%となり大きな変化はない。

・29 年度は学科間で回答率に大きな違いがあり、特に回答率が 50%未満であった、歴文、幼教、学教、特支、薬学の値を 30 年度と単純に比較することは困難である。また、日文では回答率が半減しているため（88%⇒41%）、単純な比較はできない。

・学教では満足群の顕著な減少（68%⇒49%）がみられる。これまで、教育学科では表 2~10 について、3 専攻をまとめて“教育”としてきた。今回、「所属の学科・専攻への満足度（69.6%⇒72.4%⇒60.6%）」「在籍学科・専攻への進学を勧めたいか（65.2%⇒67.8%⇒48.9%）」の主要な指標について、前年度比 10 ポイント以上の下落があった。そこで、他の項目についても、学教の満足群の値を調べたところ、「専門課程の教育」,「図書館」,「学習環境」の項目で 10 ポイント以上下落していることが判明した。「ゼミ・演習（3・4 回生）（2 ポイント減）」「教職教育センター（6 ポイント減）」のように減少幅の小さな項目や、「就職支援（企業等）（9 ポイント増）」のように増加している項目もあり、原因の調査と改善が望まれる。特支で総合的指標が大きく改善していることを踏まえると、詳細な分析が必要である。

・薬学では、2 つの総合的指標で満足群が明確に増加し、これまで指摘してきた改善の効果が現れてきたことは歓迎すべきことである。すでに言及した内容ではあるが、薬学の調査結果は、卒業試験や薬剤師国家試験等との関係により大きく変動することが判っている。学生の心に余裕がない時期に実施することは望ましくないが、よい評価値を求めて調査の時期を変更すると、経年変化をみることが困難になる。今後は、他学科と同じ時期に実施することに固定した方がよい。

１３．まとめ

共通項目における満足群＋普通群の経年変化を概観すると、1）共通教育、外国語教育、情報教育といった卒業生にとって過去の科目と位置付けられる項目の満足度は、やや低めで変化が少ない　2）薬学で教育課程改善の効果が現れてきた（ただし、調査の時期が年度により他学科とは異なっており、時期を他学科に合わせて調査を継続した後に確認をしたい）　3）卒業前１～２年（専門教育に入ってから）の学習経験が卒業時の満足度を支えている　といったことが確認された。また、今回、学教で専門教育に対する不満が、総合的な満足度を下げる要因になっているのではないかという変化が見られた。昨秋に実施した学生満足度調査においても不満の声があがっていたが、卒業生による総合的評価だけではなく、こまめな調査・分析・学科へのフィードバックが必要になってきている。「PDCA サイクルを回す」という観点では、本調査は在学期間完了時の振り返り“C”であり、かつ次年度の事業計画や授業設計などの完了後に実施しているという点で、結果を次の“A”につなげ難いという問題を内包している。卒業時に「在学中の満足度を全卒業生に問いかける」だけではなく、当該学年の満足度の経年変化とも関連付け、満足度の増加・減少に効果を及ぼした改善内容を知ることができるようにすべきだと考える。今後は、卒業時調査の結果だけではなく、他の調査との関連についても分析を進めたい。

以上